

あ) この映像の13年後にはなりました。

い) 親は島育ちで、若い頃の写真に海岸で牛の親子(野牛です)が写り込んでいたのを思い出した。母牛が後ろを遠くついでくる子牛を振り返りモーと呼びながら歩いていたそうです。私はこのエピソードが愛しくて、昔の8mmで映像を見せられたかのように憶えています。

う) 49才 川崎市

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 当時、6才 (小2年生?)、住まい 世田谷区

(い) 夏休みには「田舎に帰る」といって地方の実家で過ごす子うさうやましかった。おと、自分の家にU.E.の?

アカカブ 厚根の家、庭先のマキ

ロケの型、除機

「道義、信玄」へネットでお知らせ

(あ) 新橋駅 → 千葉まで移動 (銀座、内市方面、外市方面)

昭和37年10月に「内市」「外市」となり、別称になる

今は無きJRの「道義」、自動車王国だった信玄車道

う) 現在 68才、住まい 世田谷区

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2024 no.2

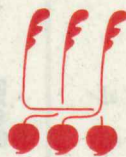


穴アーカイブ: an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在(穴)から捉え直す反(an)アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30～50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。

穴アーカイブ: an-archive
No.39 | 大原海岸と圭子ちゃん
1962 (昭和37) 年8月 | 大原の生家 (千葉県) | 18分16秒 | カラー | モノクロ
夏休みに帰省した生家とその周辺、海女など。映像の提供者は千葉の大原で生まれ育つ。中学卒業と同時に東京へ出て上京。いわゆる「金の卵」だった。お盆で提供者の実家に帰省した際に撮影。撮影は提供者のご協力。制作は穴アーカイブ。

参加者の記憶を媒介とした対面での「言葉の交流」を目的とする、せたがやアカカブの会。2022年度からは《ハガキ方式》での遠隔実施と対面実施を併用するハイブリッド開催です。今回、ご覧いただいた映像は『大原海岸と圭子ちゃん』(No.39、昭和37年8月撮影)でした。さて、どのような声が集まってきたのでしょうか。じっくりお楽しみください。



せたがやアカカブの会: The setagaya akakabu circle
穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはお問い合わせからご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌とかぶうずら、やまいもうなぎは、当会の断片的・公式活動記録。

(あ) まだ生まれていない、父が18歳

(い) 夏休みの帰省で海水浴に行った記憶はないが、8年くらい前、住み込みのアルバイトで夏の間伊豆大島に行っていた友人を訪ねて、大島に行き、2人で海を泳いだことがあったなと思い出した。その友人と九十九里浜の海岸でキャッチボールをしたこともあるが、それは冬だったので海には入っていない。

う) 35歳、目黒区

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 当時の年齢、居住地

(い) 思い出してエピソード

(う) 現在の年齢、居住地

(あ) 生まれる30年前です

(い) 自分が子どもの頃は、両親がよくビデオを撮っていたことを思い出しました。UとVというので、ほぼわけてしまいうつっていないビデオでした。それに比べると今日の映像は630pHD(?)を感じました。ホームムービーっぽくないというか…。また、自分の出身が千葉の海沿いで、海沿いにあるような場所だったので、海岸の風景を見ていると、日暮りも場所も知らないとどこかへ行ってしまふ感じがしました。

う) 32歳、目黒区

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 生まれていません。

(い) 一緒に鑑賞した方の当時のエピソードを聞いて
にわりの鳴き声、にわりも追かけるときのカケ声か
思い出された。当時を生きてはいないのに思えるような
(想像とはちがう) 感覚が不思議でよかったです。

(ロ) 世田谷区若林 41才

No.39

『大原海岸と圭子ちゃん』

昭和37年8月 | 大原の生家(千葉県)

8:16 | カラー/モノクロ

夏休みに帰省した生家とその周辺。海女など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 当時の年齢 5才

(い) 思い出のエピソード

1才頃、同じ海女の家、遠くに住んでいて、夏休みの思い出とあって、
いっしょに遠くの家へ海女の家で遊んだ。透明な海、低い道、
と想像して、下層の家も遠くで、大層な家だ。人々をいかに
(エピソード) 海女の家へいって、いかに大層な家だ。東洋の
遠くの家へいって、いかに大層な家だ。東洋の
α (海女の家へいって、いかに大層な家だ。東洋の
いかに大層な家だ。東洋の

(ロ) 現在の年齢 57才
居住地 太子堂

No.39

『大原海岸と圭子ちゃん』

昭和37年8月 | 大原の生家(千葉県)

8:16 | カラー/モノクロ

夏休みに帰省した生家とその周辺。海女など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

当時、6才。渋谷区笹塚から世田谷区三軒巻

大原は漁港のイメージが強かったため
泳げるなんて意外でした。昔の農村
風景が展開しているのも意外、それを
8ミリのカラーで当時早せるなんて
さらに不思議。ノスタルジックなひととき
でした。

68才 大田区蒲田在住

No.39

『大原海岸と圭子ちゃん』

昭和37年8月 | 大原の生家(千葉県)

8:16 | カラー/モノクロ

夏休みに帰省した生家とその周辺。海女など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 生まれていない。(母も生まれていない)

(い) 私も④4~6歳の頃、大原で過ごした。

・花火大会の混雑で、大泣きし、もう帰りたいと言って
家族を困らせた。花火が始まって、車の後窓から
花火を眺めてた。家族はやっぱり見たいのねと
笑っていた。

31才 世田谷区

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 0歳。福岡県大牟田市

(い) 茅葺き屋根なので、夏でも薪を燃したのでしょうか。
映っていないけど、囲炉裏があったのでしょうか。

映像に障子紙も破れているシーンがありました。
あの中央だけガラスが入っている障子戸。近頃
見なくなりましたが、私の実家も、母の実家もあの
タイプでした。ガラスの一部が、おが屑で模様を
つけてあるのが、なかなかいいです。

(ロ) 今年の暮れに63歳になります。世田谷区宮坂在住

No.39

『大原海岸と圭子ちゃん』

昭和37年8月 | 大原の生家(千葉県)

8:16 | カラー/モノクロ

夏休みに帰省した生家とその周辺。海女など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 生まれてません。父は1才。

帰省しようと、海女の家へ

(い) 父方の祖父母の家に夏休み、良く遊びに行っていた。(新潟の長岡市)
親せきの家で牛を飼っていたり、いりのお古民家の様式家
にあはつかりにしていた記憶がある。おたにの
木製の看板、ビクリンシルのニモロのガチャなど
が独特の雰囲気。思い出。光景という食料品店、祖母に
いつも買ってもらっていた。

(ロ) 42才 世田谷区

No.39

『大原海岸と圭子ちゃん』

昭和37年8月 | 大原の生家(千葉県)

8:16 | カラー/モノクロ

夏休みに帰省した生家とその周辺。海女など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) 9才。渋谷区笹塚から世田谷区三軒巻

(い) 夏休みに母方のいるが、和歌山県の新宮へ毎年のおらに
いきました。新幹線もなく、冬は新幹線も通ずるが、移動は
遠く1泊で楽しかったけれど、親の負担(経済的)は大き
くなった。新宮の土産品、地産品をブティックで
き上げて、お土産にあげておられます。新宮の方言が
よく理解出来ず、海外に居るような感じがして、逆に
地元の人に「お前の子はコトバをわかんないやな。」と言われました。

(ロ) 現在 41才なりたて。大田区在住。

No.39

『大原海岸と圭子ちゃん』

昭和37年8月 | 大原の生家(千葉県)

8:16 | カラー/モノクロ

夏休みに帰省した生家とその周辺。海女など。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

あ： 生まれておりません

い： 自分の父母が10代だった頃の
映像とみるため。
父母から聞いた当時の話は
このような風景の中にあつたのだと
思い浮かべながら拝見しました。

う： 41才 世田谷区



世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83